平成30年度　支え合うきよせ委員会　第4回
（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）　会議録

1　開催日時　平成31年2月18日（火）午後2時30分から午後4時10分

2　開催場所　健康センター　第1・2会議室

3　出 席 者　平成３０年度第4回支え合うきよせ委員会　出欠席名簿の通り

4　次第

（1）　開会・挨拶

（2）　配布資料の確認

次第

- 資料１　平成３０年度　支え合うきよせ委員会　第３回会議録（案）
- 資料２　平成３０年度　地域資源・ニーズ把握部会　第５回記録
- 資料３　平成３０年度　高齢者１１０番チーム　　第３回記録
- 資料４　地域包括支援センターの役割に対する認識を高めることを目指したわかりやすいキャッチフレーズの活用に関する提案（案）
- 資料５　高齢者１１０番チーム　議論まとめ（案）
- 資料６　平成３０年度　支え合いバックアップ部会　第８回記録
- 資料７　平成３０年度　支え合いバックアップ部会　第９回記録
- 資料８　平成３０年度　支え合いバックアップ部会　第10回記録
- 資料９　第２層協議体に関する進捗状況について
- 資料10　支え合うきよせ委員会の活動報告会（案）
- 資料11　平成３０年度支え合うきよせ委員会　活動振り返り資料

（3）　委員紹介

澁谷委員の欠席に伴い、商工会事務局の関氏が代理出席することについて、事務局より報告。

（4）　報告

ア　前回本会議事録

事務局より、資料１について報告があり、承認。

イ　各部会報告・意見交換

①　地域資源・ニーズ把握部会（Ａ部会）

内田部会長・田中副部会長・鍵和田生活支援コーディネーターより、資料２～５を用いてＡ部会の議論の経過、高齢者110番チームの議論の経過とまとめについて報告。

◆　個人情報に関する勉強会

個人情報について地域が抱える課題は、今後ますます増えていく可能性あり。課題が出てきた際に速やかに課題解決ができるよう、地域でもこうした勉強会が開催できるようにする必要あり。

◆ 高齢者 110 番

他市の事例調査や様々な視点での意見交換など、これまで４回集まって意見交換を行った。資料４について、これまでA部会が中心となって議論してきたが、支え合うきよせ委員会として清瀬市に提案したい。また、意見交換した内容は１つ１つが来年度以降にもつながる内容。引き続き、議論を行いたい。

② 支え合いバックアップ部会（Ｂ部会）

原田生活支援コーディネーターより、資料６～８を用いてＢ部会の議論の経過と状況について報告。

◆ 空きスペースの活用

A部会が開催した個人情報に関する勉強会や包括だよりなどで、空きスペース募集を開始。また、第１層生活支援コーディネーターや清瀬市により、スペース利用にあたって貸し手と担い手とでトラブルが発生しないよう、弁護士などに相談をしながら申込の仕組みを調整中。今後も、空き家募集と仕組みづくりを並行して行う。

◆ シニアクラブと連携した取り組み

清瀬市シニアクラブ連合会による友愛活動研修にて、支え合い体験会を実施。シニアクラブに所属する方が約３０名参加。取り組みの実施に向けて意見交換を行う中で、シニアクラブと避難行動要支援者制度との連携が話題となり、担当者同士で調整中。また、シニアクラブでは人材バンクの取り組みを実施中。同様の仕組みを持つ団体同士の情報交換など、次年度に向けて検討を行いたい。

◆ 生活支援や助け合い活動について話し合う会

委員より、市内で住民主体の助け合い活動を行う団体同士の連絡会やネットワークがないことから、会の実施に関する提案あり。３月中旬に実施予定。

ウ 第２層協議体設立に向けた進捗状況について

各第２層生活支援コーディネーターより、資料９を用いて報告。

■ 原田生活支援コーディネーター

・ ２回の勉強会、３回の準備会を経て、１月２４日に第２層協議体が発足。愛称は「いきいき会議」で、元町・上清戸・中清戸・下清戸から１５名の方が参加。

・ 今後は、参加者・団体の近況報告や地域の現状や困り事の共有を２ヶ月に１回行い、地域資源（社会資源）の調査をかねた地域資源マップの作成をプロジェクト会議として１か月に１回行う予定。

・ マップの内容や調査方法など、１つずつ確認しながら進めたいと考えており、参加者の意見や想いのすりあわせが直近の課題。

■ 森生活支援コーディネーター

・ ５月から勉強会、準備会を継続し、１０月に第２層協議体が発足。６月に竹丘南自治会で実施した支え合い体験会では、第２層協議体委員の出席を

促し、第２層協議体発足に向けた一つのきっかけになった。

・　これまで４回の会議を行う中で、参加委員の意見について足並みが揃わない部分があることから、２月・３月と全体の会議は行わず、意識合わせを目的とした少人数の打合せを実施。３月の活動報告会にも委員の参加を促し、４月より再スタート予定。

■　鈴木生活支援コーディネーター

・　高齢化率の高い旭が丘は、１つのモデルとして取り組みを進めてきた地域。５月に支え合い体験会を実施した後に勉強会を重ねる中で、みんなで通えるサロンを作ろうという声が高まり、１０月から「みんなのサロン」の取り組みが始まった。毎月様々な情報提供ができればという思いから、毎回イベントを企画し、集客にもつなげている。

・　１月３０日に下宿で意見交換会を開催。地縁や血縁などが薄くなっていると言われる時代だが、地縁や血縁によるつながりが比較的多い地域だと意見交換を通じて感じた。一方で、新たに住宅を購入して移り住んでこられた方も多く、住民同士のつながりが課題。つながりを作るきっかけとして、来年度から実施予定の介護予防の取り組みなど、検討中。また、台田団地では、生活支援の取り組みを実施したいと相談を受け、八王子市の取り組みを情報提供。来年度以降、後方支援を行う予定。

・　中里地域は広域であり、エリアを設定して意見交換会を検討中。地域住民の声を聞きながら、今後の取り組みを一緒に考えていく予定。

エ　わが街きよせの元気をつくろう～きよせ支え合い報告会～

鍵和田生活支援コーディネーターより、資料 10 を用いて報告。来年度に向けて、今後の支え合いの取り組みの進め方について検討を進める中で、協議体の取り組みや地域活動の情報が住民に伝わっていないという声を耳にする機会が多い。市内の現状や課題をお伝えするとともに、日本社会事業大学の菱沼先生よりご講演いただくことで、今後の取り組みについて考える機会としたいという思いから、生活支援コーディネーターと清瀬市が中心となり企画や準備を進めている。

＜報告事項に対する質疑・意見交換＞

①　部会や本会の役割について

➢　検討する内容により、部会を跨って考える必要のあるテーマもあり、やりづらさを感じた。また、活動の多くは部会が中心であり、本会が何を行っているかがわかりづらかった。本会の役割を改めて整理した上で、具体的な活動の成果や課題など、協議体全体で総括する必要がある。

➢　部会に参加した際、検討事項に関する報告や第２層協議体設立に向けた進捗状況を聞きながら、どのような手伝いができるかを考えていた。今後に向けて役割のすり合わせが必要だが、発言がしやすいという意味で部会に分かれたことは良かった。

➢　全体会と比べ、話がしやすいという点で部会の開催は良かった。支え合いを目標にしているので、取り組み方は違うが、近い内容を協議してい

た。今後の取り組み方については検討を行う必要あり。

- 委員長、副委員長もそれぞれ部会に参加していた。議題の内容を調整するチームが必要だったのではないか。
- 生活支援コーディネーターがそれぞれの部会に参加し、情報共有しながら議題設定をしていたが、限られた時間の中では検討が十分ではない点もあった。来年度は部会の設定方法など、他自治体の例も参考に検討したい。

② 協議体実施状況の視える化について

- 第２層協議体の取り組み状況について、地区別にわかるようにしてほしい。第１層協議体の役割として、地域別の進捗状況について把握する必要があるのではないか。
- 支え合いの取り組みが少子高齢化の背景や行政からの押し付けのように捉えられないよう注意が必要と感じている。他地域との比較によって、地域の方がどのような印象を持つかがわからない。協議体内部資料として、協議体の設置状況だけではなく、勉強会や準備会などの進捗状況がわかるといいのではないか
- きれいごとではなく、本音で実情を知らせることが重要であり、「第２層協議体がないなら、作らないといけないね」と言ってもらえるように関わるべき。ホームページなどを活用して包み隠さずに情報公開し、出来ていないことや弱みを伝えていくことも重要。
- 様々な媒体で、課題などが視えるように取り組んでいく。

③ 協議体活動報告会の開催について

- 実施することは重要であり必要なことだが、年間スケジュールに予定されていない中で取り組むのはどうなのか。また、平成２８年にフォーラムを実施した際には、委員が内容の細部を検討して実施に向けた準備を進めた。市民が主体となって取り組むことを目指す支え合うきよせ委員会の趣旨とは異なるのではないか。

（５） 検討事項

ア A 部会からの提案について

A 部会より報告のあった「地域包括支援センターの役割に対する認識を高めることを目指したわかりやすいキャッチフレーズの活用に関する提案（案）」について検討。

- 110 番という名称に対し、地域住民がどのような印象を持つか配慮する必要あり。24 時間 365 日電話対応できる体制をとっている他自治体の包括もあるが、清瀬の現状は異なる。様々な課題に対し、対応していきたい思いはあるが、110 番という言葉が持つ一般的なイメージを考えた際に、その役割を果たせるか疑問がある。
- 包括は名称がわかりづらいと感じている。敷居が高くなってしまうような名称ではなく、小さなことでも相談できる、相談しやすい名前にする必要があると感じる。

- かつて、小動物の対応について電話相談があったこともあり、包括が高齢者の課題に対応することについて知られていないと感じる。「高齢者のこと」としたのは、本人だけでなく、周囲の人も相談できるようにしたいという思い。キャッチフレーズをつけることで、緊急対応を印象づけたいのではなく、高齢者のことを相談できる場所と印象づけたい。キャッチフレーズについては、更なるアイディアがあった場合にはアレンジができるよう工夫したい。
- キャッチフレーズの名称は、A 部会の中でも推移してきた経過があり、他にもいい名称が考えられる。名称に関する検討の時間が必要。
- 包括は名称が長く、名乗っても高齢者には馴染みがない場合も多い。何らかのキャッチフレーズは必要だと感じている。

＜結論＞

キャッチフレーズの活用に関する提案は予定通り行う。名称や具体的な進め方については、支え合うきよせ委員会からの提案をもとに、地域包括支援センターにおいて検討・判断していただく。

（６） 活動のふりかえり・来年度の活動に向けて　意見交換

星野副委員長より、今年度の取り組みについて報告あり。

① 地域との接点について

A 部会は意見交換会、B 部会は支え合い体験会と、両部会ともに地域との接点を持ち、実際の声を聞くことや地域を奮い立たせるような動きや投げかけを行うことができた。

② それぞれの進め方について

A 部会は、具体的なテーマを絞って議論を進めていた。協議体が議論する場なので、目的に適った活動であった。また、B 部会は事務局からの提案が多かった。人・物・金・情報に関することなど、地域の課題について生活支援 CO から報告があった内容について検討を進めていった。B 部会では、シニアクラブで始めた人材バンクの取り組みについて、それぞれの立場や所属の強みを活かして連携できないか、一緒に何かできないかという考えにつながる話し合いがあった。１つのテーマについて、様々な立場から検討を進めるという手法は、今後の協議体の進め方にもつなげることができるのではないか。

③ 協議体の活動の成果について

個人情報に関する勉強会や生活支援団体の連絡会など、目に見える形で実施できたことはいいことであった。協議体の成果については、生活支援コーディネーターの活動と連動している部分もあるため、協議体のみの成果としては表しきれない部分も多いが、生活支援コーディネーターの取り組みがうまく進むように、それぞれの部会が取り組むことが出来たのではないか。一方で、全体で議論を行う時間の確保は課題であり、今後検討する必要がある。

＜以下、今年度の振り返りと今後に向けて委員より意見あり＞

- 協議体へ２年間参加したことで、たくさん勉強することができた。
- 第１層協議体の委員として、原田生活支援コーディネーターより声をかけてもらい参加したところ、第２層協議体の話し合いの内容がとてもヒントになった。話し合いの内容や雰囲気を体験できたことはとても良かった。第１層協議体委員が自分の地域の第２層協議体に参加できるといいのでは。
- 支え合うためには、市民の力が必要であり、１つ方向を向く必要あり。
- 本日の議論は、一部の人に発言が偏っていた。少人数で実施したほうが率直な話し合いができると感じる。参加者には十人十色の意見があり、勉強になった。協議体での議論の内容は、自身の所属に持ち帰ることのできる内容も多い。引き続き、何らかの形で関わりたい。
- うまく手伝いが出来なかった部分もあると感じている。どのように関わることが出来るか、引き続き考えたい。
- ４月以降、しっかりと第２層協議体を作っていいきたい。引き続き、お力添えをいただきたい。
- 第２層協議体では、第１層協議体との連携が課題。自身は連携したいが、想いが伝わらず、ジレンマを抱えている。３月２３日の報告会でも出席を促していきたい。第１層協議体の想いを第２層協議体でも引き継ぐことができるよう来年度も頑張っていきたい。
- 右も左も分からない状態で協議体に参加したが、所属や背景がそれぞれ違う中で力を併せていく場が協議体だと実感した。第２層協議体でも力を併せて取り組むことが出来るようにしていきたい。第２層協議体にも参加してほしい。
- 悩みながらの協議体運営であったが、来年度に向けてもう少し悩む必要あり。各委員に個別にご相談させていただき、意見交換した内容が形になったこともあれば、つむぎきれなかったこととあるので、今後の課題。勉強会からこれまでサポートしていただいている清瀬市に感謝したい。
- 清瀬市は、お金持ちではないが人持ちだと感じている。協議体で皆さんと関わる中で学ぶことが多かった。生活支援コーディネーターが何かあるごとに連絡をくれる。清瀬市があたり前だと思っていたら、他市はそうではないようで、清瀬市ほど弱い立場の人にやさしい街はないと実感した。清瀬が明るい街だとアピールしていきたいし、できることはどんどん協力していきたい。
- 市民の方を巻き込んで話をすることはとても重要。市はオブザーバー的な立ち位置で関わり、市民の方が活動を立ち上げていけるよう呼びかけていく役割でなければ、活動につながっていかないと感じる。その最前線が足を使って、他市や市内の情報を集めている生活支援コーディネーター。協議体委員は取り組みの実現に向けて一緒に考えていくことが大事。これからも一緒に頑張っていきたい。
- 平成２８年に一般市民向けのフォーラムを実施した際は、この取り組みが

どのようになっていくか、自分がどう関われるかイメージがわかなかったが、すごいスピードで状況が動いており、生活支援コーディネーターの働きに心から感心している。時間や体力を惜しまず、休日などにも様々な場所に出向いており、会うたびに新しい情報がある。話しを聞くたびに、自分達も新しい提案をすることや力になる方法を考える。B 部会では、活発な意見交換ができ、参加できて良かった。

- 平成２７年度に立ち上がって以降、皆さんの力で１つ１つの課題を解決してきたのだと実感。新しい課題も出てきており、協力できることがあれば協力したい。
- 包括職員でありながら委員という立場で参加。協議体に参加して様々な方から意見を聞くことができ、視点が拡がったと感じている。この取り組みは１からではなく０から初めていくという点で、とても難しいこと。包括の職員として生活支援コーディネーターの活動をうまく支えられない部分もあるが、今後も続いていくので出来ることは考えたい。また、１つのテーマに対し、かけつけてくれる人が多くいることが大事。テーマによって相談できる人が多くいると、話が盛り上がり、検討しやすくなる。包括職員として専門職とのつながりがあるので活かしていきたい。
- これからも宜しくお願いしたい。
- 平成２７年度に始まった際は、生活支援コーディネーターもいなかった。知恵を絞るなど、清瀬市の設計性がよかったと思う。

イ　事務局より、当日資料を用いて、「ケアニン」特別上映会について周知あり。

（７）　閉会

（議事録の取り扱いについて）

議事録については、協議体の取り決めにより、開催後の次回協議体で承認後公開されることとなっております。また、開催資料の修正等がある場合、資料公開までに遅れが生じる場合がございます。ＨＰでの掲載まで時間がかかる場合があることがございますが、予めご了承ください。